おごせ教育 Pick Up

一人一台のパソコンで学校が変わる！

越生町教育委員会

▲中学校では、家庭と学校をつないで接続確認などを行いました。（越生中）

▲小学校低学年は、まずはパソコンの操作方法を学んでいます。（越生小）

▲子供たちにパソコンを使った授業を提供するために、先生方の研修も行っています。（梅園小）

昨年11月に、越生町の小・中学校の子供たち一人一人にパソコンが、近隣自治体のどこよりも早く整備されました。パソコンを使ってコミュニケーションをとったり、情報を取り出し、活用したりする能力は、これからの社会を生き抜いていくために必要な能力となってきます。

また、新型コロナウィルス感染症の収束が見えない今、学校を欠席しなければならなくなったり、休校となったりすることもあるかも知れません。そんなときに、子供たちの勉強をサポートするために、家と学校をつないでパソコンを使って授業を受けること（オンライン授業）も想定しておかなければなりません。

各学校では、子供たちの学年に応じて活用がスタートしました。中学校は、すでにオンライン授業を行う体制ができましたので、今後は、小学校高学年から順次進めていきます。

おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

ズームイン教育280

学校紹介 武蔵越生高等学校

本校は「行うことによって学ぶ」という建学の精神のもと、創立68年を迎えた全日制の私立高校です。学年10クラス、千人を超える生徒が在籍しています。本校敷地内に教室棟3棟、体育館2棟、宿泊施設兼トレーニングジム、人工芝グラウンド、野球専用グラウンド、武道館などの施設があります。また、長野県軽井沢にも宿泊施設を有し、学校行事、部活動の合宿で利用しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大により暗い話題が多い中、明るい話題もありました。サッカー部が全国高校サッカー選手権埼玉大会で準優勝。チアリーダー部が全国大会入賞。また、和太鼓部はTBSテレビ「V6の愛なんだ2020」に出演しました。陸上部も関東駅伝大会に出場しました。さらに、家庭科部は11月下旬に行われた航空自衛隊入間基地の観閲式にて、菅首相への献上品を依頼されました。

▲第99回　全国高校サッカー選手権　埼玉県大会　準優勝　埼玉スタジアム2002

越生浪漫

No.144

越生の太田道灌像

越生2体目のブロンズ

昨年12月、越生駅西口に建立された太田道灌像は、四代目慶寺丹長が昭和50年（1975）に完成させた青銅製の立像です。龍穏寺の道灌像と同様に、平安時代末期から普及した狩装束をつけた姿で、「武士が山野に狩する時や流鏑馬の時にはこの姿に扮する」（井筒雅風『日本服飾史　男性編』）とされています。

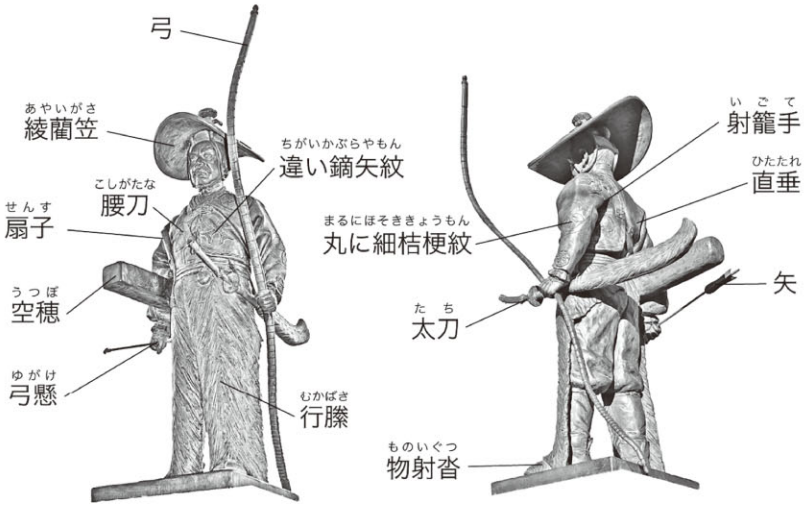
道灌像の多くは越生町の2体と同じ「山吹伝説」をモチーフにした狩装束です。

ほかにも「騎馬」「文人」「猿を連れている」「嗣書を授かる」姿の道灌像が、関東やその周辺に十数体建立されています（尾崎孝『道灌紀行』）。

越生駅前の道灌像

髻から足先まで高さ16.5㎝。左肩から手首までを覆う「射籠手」（弓を射る時に袖が弦に当たるのを防ぐ）には、太田家の家紋「丸に細桔梗」や替紋の「違い鏑矢」がみえます。ただし、像の桔梗紋は花弁が4枚です。

右腰に下げた「空穂」は矢が雨で濡れたり物に触れて破損するのを防ぐための矢入れ具で、「弓懸」は弓を射る時に手の指を保護するための革製の手袋です。腰から足先までを覆っている「行縢」は足を痛めないための服飾品で、当時は鹿の夏皮を着用するのが正装とされていました。



狩装束の太田道灌像（越生駅前）

龍穏寺の道灌像

道灌五百年忌にあたる昭和60年に建立されました。川越出身の彫刻家で、川越市役所前の道灌像を制作した橋本次郎氏の作品です。高さ158㎝、右手に山吹をひと枝を持っています。射籠手に描かれた「雁」は、道灌築城の河越城（別名初雁城）にちなんだデザインです。駅前の道灌像とは異なり「箙」と呼ばれる箱形の収納具に差し込んだ矢を携えています。箙の正面につけられた「勝虫」や「勝軍虫」と呼ばれ武士に好まれた蜻蛉形の飾りや鏑矢などに緻密な細工が施されています。矢先が交差された鏑矢は、太田氏の替紋を表しているのでしょう。

右腰に下げた箙と鏑矢（龍穏寺の道灌像）

吉澤家の道灌像

龍ヶ谷の吉澤明吉さんのお宅には、高さ22・5㎝の真鍮像が大切に保管されています。駅前のものと同じ武具を所持し、台の後ろには「昭和十一年七月廿六日　太田道灌公四百五十年祭記念　東京市」と記されています。

吉澤家の系図によると、道灌の曾孫・太田康資の二男が北条氏に仕えたのちに、母方を嗣いで「吉澤覚左衛門」と名乗って越生で帰農、その子孫が今日まで続いていることが示されています。康資の娘・梶（お勝の方）は徳川家康に寵愛された側室で、太田氏の復興に尽くした人物です。

吉澤家の鋳像は、道灌四百五十年祭に招かれた先々代の七之助氏に、東京市から記念に贈られたものです。

吉澤家に伝わる道灌像

越生町役場の道灌像

平成28年12月、役場玄関に三枝惣太郎氏制作の道灌像を原型とし、県立越生高校美術科教諭の六田貴之氏と生徒が制作した道灌像が設置されました。高さ130㎝、FRP（繊維強化プラスチック）を使用した作品です。

昭和から令和にかけて造られたこれらの像は、時代を超えて文武両道の名将・太田道灌が人々に愛され評価をされてきた証です。